

微生物がよるこぶ環境づくり
数波方程式による KS 乳酸菌生産物質の波動培養とは

数波ことば 共存する微生物へ
 感謝の気持ちを伝えます



※地球への感謝を込めたイラストは、「ピバ推奨商品カタログ」にも使われているものです。

こころの氣とからだの氣の絶対調和のうえで成り立つ数波方程式では、ことばの持つ本質的な特徴を知ることが出来ます。
 「ごめんなさい。許してください。愛しています。ありがとうございます。」は、ホ・オポノポノのクリーニングのコトバとして知られています。数波方程式によると、「カミと自然と人との調和」を意味し、全ての存在は調和のうえでいかされていると解析できます。

数波音楽 調和の音楽を響かせます

最近では、野菜や果物、牛を育てたり、日本酒や焼酎をつくるのに、「音響栽培」「音響熟成」と言った製法を導入する生産者が増えてきました。ここでは、暦の数波ことばからイメージして作曲された「数波調和シンフォニー」を流しています。



◀日本人として初めてパチカンにてローマ法王の調見演奏をした西村直記氏による作曲演奏。

微生物は聞いている

ノーベル医学・生理学賞を受賞した大村智博士は、「イベルメクチン」の開発により多くの人類を救いました。開発にあたって「微生物のチカラを借りただけです。」と表現されたことが印象に残ります。

KS 乳酸菌生産物質も微生物のチカラでつくられています。「健康を支えてくれる微生物がよるこぶものは何かを研究し続ける中で、微生物は調和意識をもっていると感じざるをえません。」と開発者は言います。調和意識に沿う環境づくりに数波方程式を活用しています。



▲KS 乳酸菌生産物質の培養タンク。微生物のハタラクにまかせるため、熟成に2ヵ月以上要する。

KS 乳酸菌生産物質



- KS メルト (500ml)6,286 円+税 (1L)12,000 円+税 (2L)22,000 円+税
- ルンルン (315g)4,600 円+税 ↑※詰替え容器付き (50g)1,200 円+税

KS 乳酸菌生産物質を取り入れた製品



- べっぴん むぎめしパン 味わいアーモンド 1 個 259 円+税
- べっぴん食パン KS 入 1 個 241 円+税

- 水溶性と不溶性の植物繊維のバランスが良い大麦 使用!
- トランス脂肪酸ゼロ!
- クリスマス島の海の塩 使用!



- アルファベスト 核酸入生ゼリータイプ 10g×48 包 8,000 円+税

※このページは「産業新潮」掲載によるものではありません。



◀数波方程式開発者渡部晋三が紹介された「産業新潮」表紙。

● 産業新潮 ●

ボーダーレス時代の変化の激しい潮流を的確にとらえ、グローバルな視野で自己責任の下、フレキシブルに行動するための有益な情報を迅速に提供する経済誌。産業新潮 HP <http://homepage2.nifty.com/sancho/>

コトバのものさし「数波方程式」

「コトバは行動になる」 マザーテレサ

同調する
三つの
ことば

1. 口癖で未来が変わる
2. 幸福にアクセスする
3. 健康人生であれ

あなたは、どう捉えますか？

数波は、学びの世界ではなく、気づきの世界です。常識や、良い悪いは一切ありません。数波分析したコトバを、それぞれがどう捉えるかが大切です。

「数波方程式」は言葉の力を計る物差し

そらみつ大和の国は皇神の厳しき
国 言霊の幸はふ国と語り継ぎ言ひ
継がひけり

万葉集第5巻894の山上憶良の歌である。

古より大和の国は言葉の霊力が幸福をもたらす「言霊の幸はふ国」だった。その言葉の霊力を「波動」として捉え、独自の数式(数波方程式)によってエネルギー解析し、「調和」をキーワードに幸せな人生と世界の平和を願う平成の求道者がRin数波研究所の渡部晋三所長、通称スーハゆうじんである。

「はじめに言葉ありき」とあるように、私たちがものごとを認識し、考えをめぐらすには常に言葉を媒介としてしている。言葉を媒介にして私たちは己を知り、世界を知る。

渡部さんはその言葉を自ら考察した「数波波動分析 π 理論」に基づいて「数」に置き換え、言葉の持つエネルギーを解析して、言葉に秘めら

れた意味や内容を明らかにし、誰もが認識し、共有することを可能にした。数波方程式とは、言葉の本来の意味を知り、言葉の力を計る物差しなのである。

「数波」とは聞きなれない言葉だが、言葉を数に変換したものが「数波」で、その数波と同調することを「数波同調」という。渡部さんは、「数波」とは数字の持つ潜在的な意味と可能性、数字そのものの振動エネルギーや秘められた力を見極めて森羅万象の不思議を理解していくツールなのです」と力説する。

言葉の力を数に置き換えてエネルギー解析する数波波動分析 π 理論のキーワードは調和だ。「数波と同調する言葉(数波詞)」を日々使うことによって「こころ」と「身体」が調和融合し、ストレスゼロの気分の一日を過ごすリズムが完成されま

数波は完全な調和の世界にしか存在しない

名前や文字などを数字に変換し、統計学的手法によって従来とは全く

言葉と数字の「調和」を説く 平成の語り部

Rin数波研究所長



わたなべ・しんぞう 1945年愛媛県生まれ。スーハ波動 π 理論開発者、通称名「スーハゆうじん」。日本少林寺拳法の創始者、宗連氏の重弟子として後進の指導に当たる。少林寺拳法准師範士6段、眼鏡・健康機器販売の天狗堂社長、乳酸菌製造販売のケイエス社長、数字と言葉の神秘的な関連性に気づき、20数年にわたって数波の研究に携わる。著書「スーハマジック」

きるのでは」と一念発起して数字の研究に取り組み、数波方程式の考察に至るのだった。

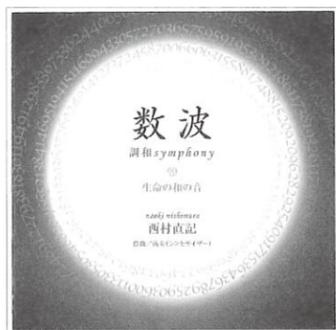
「少林寺拳法の基本的な考えに『力愛不二(力と愛は二つに一つ)』というのがあります。力と愛が一つになった時に大きなエネルギー(波動)が生まれるわけで、氣の研究を通して波動に調和を加え、独自の計算法を確立して数波方程式を完成させました」

う宝飾品や眼鏡を扱う店を構え、他に健康食品の事業も手掛けるようになった。経営者として渡部さんは数字に追われる毎日をごすことになり、この数字さえコントロール出来たらどんなに楽だろう」と考えるようになった。

「 π 」は進化する法則を持つ魔法の数字

一方で少林寺拳法に精進していた渡部さんは、氣の世界、波動の世界の所作である少林寺拳法を通じて「数字にも波動があるのではないか」と考えるようになった。「数字の波動をつかめば数字をコントロールで

数波方程式には数字と言葉の波動以外に、もう一つ隠れたエッセンスとして π (円周率)がある。 π はどこまでも無限に続く切れない数字だが、渡部さんは「無限に続く」を「進化し続ける」と捉える。「 π というのは無限の方向に向かってエネルギーが動く、進化する法則を持つ重要な数字です。 π は常に進化しながら生きている人間が発する言葉になくならない波動なのです。言葉の中にある進化のエネルギー、宇宙のエネルギーである π は、悠久の『絶体調和』をもたらす魔法の数字だといえるでしょう」と π の



有名なシンセサイザー奏者で作曲家、西村直記氏の調和をテーマにしたCD

異なる「新しいモノの見方」「考え方」「気付き」を知る数波方程式は、20年前に渡部さんによって考察された。言葉の持つ本質的な特徴を知れば、どのような言葉を用いるべきかが分かり、正しい言葉の選択によって「心の調和」と「ストレスの緩和」を実現するプロセスを理解することができ

「あらゆるモノには名前や呼び方が必ずあり、固有のエネルギーが秘められています。例えば商品名や会社名、ブランド名が持つ言葉のエネルギーを分析することで、ビジネス戦略に役立てることが出来ます。歴史上の著名な人物の名前に特徴的なエネルギーが秘められていることなどが分かってくると、歴史に対する新

たな興味湧きあがってきます」数波方程式は、言葉の隠された意味やエネルギー(力)を誰もが共通して認識できるツールと言うことができる。そして、これによって気付き数波の世界は完全な調和の世界にしか存在しないという。「数波は調和エネルギーの法則でプログラムされた数式なのです。数波方程式によって導き出された『解』は、心の氣と身体の氣との絶体調和の上には存在しません。数波を知ることによって言葉による新しい世界の扉が開かれ、ビジネスや人生をさらに充実したものにします。生きることそれ自体が楽しいと実感する充実した人生を送ることが出来るでしょう」と渡部さんは熱く語る。渡部さんは中学生のころから人間観察が好きだったそう。この人はなぜ、何のためにここに存在しているのだろうか」という疑問を常に抱いていた渡部少年は、試験の点数や偏差値、競技のタイムなど数字に一喜一憂する姿を見て、「人は数字に左右されているんだなあ」ということに気付く。高校時代に走り幅跳びでオリンピックの強化合宿参加の資格を得ていた渡部さんは、ラグビーで大けがをして走り幅跳びを断念し、兄に倣って少林寺拳法を習い始める。長じて昭和52年に「天狗堂」とい

秘密を語る。

数波エネルギーという調和とは、氣の働きであるすべての波動が自然界の法則に沿って滞ることなく円滑に動いている状態を指す。不調和の信号が出ると、数波エネルギーは即座に停止状態になるといいます。「善悪や良し悪し、正しいか間違っているかということに関係なく、調和の中でしか数波エネルギーのスイッチはONになりません」

数波の願いは万物の調和と人の世の幸せ

数波では一つの言葉をいったん12個の数字(横3行×縦4行)に置き換えて表現する。数字に変換して分析できる言葉や文書は無限だ。自分の名前をはじめとした人名や地名、生年月日、会社名、詩歌、文章、キヤッチコピーなど口に出して発音できるものすべてで、これらの言葉を「波動」として捉える。そして言葉をそれが持つ波動と共鳴する数字の波動(数波)に置換して、その言葉の裏側に隠された本当の意味を表す新しい言葉「数波詞」を導き出す。この一連の解析手法が数波方程式なのである。

渡部さんの通称名である「スーハゆうじん」というのは、講演会でいつも「数は友人です」と話しかける渡部さんをイメージして友人がプレゼントしたものだといふ。「世の中に私たちが知っているもので名前のないモノはありません。すべて固有の名前にはそれぞれに深い意味が込められています。その秘められた意味を認識することで今までとは違った新たな世界が開け、新しい価値観に目覚めた新しい自分を見出すことでしよう」こう語りかける渡部さんは、モノの時代から心の時代へ、大きくパラダイムシフトする平成の語り部といえる。日本は言葉の力によって幸せがもたらされる「言霊の幸ふ国」である。今、渡部さんの手によって言葉のエネルギーが、独自の数波方程式によって本来の意味や秘められた内容が絶体調和された数波詞として現代に甦ろうとしている。対立と抗争、歪な格差社会と不協和音の喧騒に包まれる現代社会の中で、無限の進化を遂げる絶体調和の数波による「気付き」と「共鳴」に寄せる期待は大きい。(小川洋一)